

2023年5月23日

みなべ町の動脈硬化予防健診に参加された方へ

和歌山県立医科大学の保健看護学部では、以下の疫学研究を実施しています。ここにご説明するのは、2022年にみなべ町で実施された動脈硬化予防健診を受診された皆様の検査結果やアンケート調査の情報を利用して行う疫学研究です。この研究は、和歌山県立医科大学の倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する試料や資料を使用して行う研究ですので、新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われた方で、ご自身の情報が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

和歌山県在住地域住民の生活習慣病発症に関わる遺伝・環境要因に関する研究

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学保健看護学部 教授 宮井信行

3. 研究の目的

加齢や生活習慣が原因で免疫機能が低下する結果、感染症に対する重症化のリスクが高まるとされています。この研究では、尿の中に含まれる成分を詳しく分析することで免疫の働きを測定し、普段の食生活や健康状態との関係を調べたいと考えています。これによって、免疫機能の低下を軽減するために必要な食品および生活習慣を明らかにできる可能性があり、予防対策への貢献が期待されます。

4. 研究の概要

(1) 研究の対象となる方

2022年(令和4年)にみなべ町の動脈硬化予防健診に参加して尿検査を実施した方が分析対象となります。

(2) 利用させていただく情報

この研究で利用させていただくのは、健診で採取した尿(検査に必要な量を使用した後の残り)と、各種検査(身体測定、内臓脂肪量、血液生化学検査、腸内フローラ検査、免疫機能検査)およびアンケート調査(性別、年齢、病気の治療歴と服薬状況、喫煙、飲酒、身体活動量、食物摂取状況)の情報になります。

(3) 研究方法

健診で採取した尿の残りを使って、尿中からマイクロRNAと呼ばれる物質(小さなRNA分子)とタンパク質の量を網羅的に測定して免疫の状態を調べ、動脈硬化予防健診の検査結果や、生活習慣、社会的活動度などの情報との関係を統計学的に解析します。なお、マイクロRNAは2000種類以上の分子があるとされていますが、それぞれの分子の発現を調べるものですので、皆さんの遺伝子情報を解析することはありません。

5. 個人情報の取扱い

この研究で利用するデータからは個人を特定できる情報は削除します。また、研究成果を学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

このような疫学研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、あなたには、ご自身の資料が利用されることを望まない場合にこれを拒否する権利があります。その場合は、2023年（令和5年）7月31日までに下記の問い合わせ先までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否されたとしても不利益を被ることは一切ありません。

7. 研究組織

研究責任者 和歌山県立医科大学保健看護学部 教授 宮井信行

分担研究者 和歌山県立医科大学 名誉教授・NPO 法人ヘルスプロモーション研究センター
理事長 有田幹雄

〃 キリンホールディングス・ヘルスサイエンス研究所 所長 藤原 大介、主務 辻 亮平

8. 問い合わせ先

和歌山市三葛 580

和歌山県立医科大学保健看護学部 教授 宮井信行

(TEL) 073-446-6700 (FAX) 073-446-6720

E-mail : miyain@wakayama-med.ac.jp